

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和 8年 4月 9日

派遣大会・事業名	第57回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会
派遣期間	2026年3月28日(土)～3月31日(火)
報告者	今井 康輔
派遣先	京王アリーナTOKYO

派遣スケジュール

3月28日	女子1日目
3月30日	男子1日目
3月31日	男子2日目

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

講師 一色 渉 氏(茨城)

その1 全国大会に臨む心構え

その2 大会の主な特徴

その3 2POメカニクスの確認

〈その1 全国大会に臨む心構え(他の大会との違い・必要な準備)〉

- ・初めて会う審判員やクルーに対して、積極的に自己開示を行う。
- ・大会期間中にどのように成長したいかを明確にし、参加目的を持って臨む。
- ・チーム、運営、TO、関係者に対してリスペクトを持ってコートに立つ。

〈その2 大会の主な特徴〉

- ・大会特別ルール(ゴールの高さ305cm、スリーポイントあり、6号球)を事前に確認する。

①1on1

中心選手の特徴を早い段階で把握する。

②ルーズボール

ポゼッションアローの向き、ボールコントロールの有無を確認する。

③感情の把握

選手の感情の変化(上下)を把握し、表情にも注意を払う。

〈その3 2POメカニクスの確認〉

・ワーキングエリアの確認

トレイルはプレーを見に行く意識を持つ。リードは状況に応じて広がり、クローズダウンなどを有効に活用する。

・エリア3の見方

トレイルはボールウォッチャーにならないよう、自身のプライマリマッチアップを常に視野に入れる。

・3ポイント/2ポイントの確認

判定が分かれた場合は、ショット成功後速やかにゲームを止めて確認する。アシストは確信を持って行う。

・45度のショット

トレイルはショットのつま先から着地まで、およびブロックショットのコンテストを静止して確認できる位置を取る。

・リバウンド

リード側でプレーヤーが密集していて視認が難しい場合、トレイルもロートレイルの位置からペイント内の判定に積極的に参加する。

・プレーコーリング

触れ合いがないプレーはファウルとしない。レフェリーディフェンスを実践し、責任の所在を明確にする。

〈U12の大会のもう1つの特徴〉

マンツーマンディフェンスの基準規則

→プレゲームカンファレンスにて必ず確認する。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 4月 9日

担当試合

試合日	令和8年3月28日(土)
回戦 カード 点数	女子1日目 11:40 西宮浜SEAGULLS(兵庫)40-41城東台フレンズ(岡山)
会場	京王アリーナTOKYO
審判員名	CC:上原 幸人 氏(沖縄) U1:今井 康輔
審判員主任名	
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスでは、プライマリの確認や約束事項、全国ミニ特別ルールの確認を行った。
試合では、今大会よりボールが6号球となった影響もあり、ボールを十分にコントロールできず、ダブルドリブルとなるケースが多く見られた。
また、リバウンド後の手の使い方について、より丁寧に判定する必要がある。
前半にテンポセットを行ったことで、後半はイリーガルな手の使い方よりも、ボディコンタクトを判定する場面が多く見られた。
ボディコンタクトについては、レフェリーディフェンスおよびリーガルガーディングポジションを踏まえ、接触の責任を見極めながら丁寧に判定する必要がある。

担当試合

試合日	令和8年3月30日(月)
回戦 カード 点数	男子1日目 14:00 島根マリン・ファイターズMBC(島根)40-21八万ウルヴズミニバスケットボールクラブ(徳島)
会場	京王アリーナTOKYO
審判員名	CC:西田 周平 氏(大阪) U1:今井 康輔
審判員主任名	
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスでは、今大会初の男子ゲームであることを踏まえ、キープレーヤーやビッグマンの確認、スイッチサイドのタイミング等について確認を行った。
試合では、機材トラブルによりショットクロックが作動しない場面があった。ショットクロックは成立していたものの、メインクロックを適切に戻すことができなかったため、今後はこのような状況におけるクロック管理を徹底していきたい。
また、ビッグマンに対する小さい選手のボックスアウト時のファウルについて、より丁寧に判定する必要があると感じた。適切に判定することで、不要なファウルアウトを防ぐことにつながると思われる。
さらに、ビッグマンのトラベリングについても、明らかなものを積み重ねて判定することで、小さなプレーヤーが不必要なファウルをせずに守り切れる場面が見られた。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 4月 9日

担当試合

試合日	令和8年3月31日(火)
回戦 カード 点数	男子2日目 16:20 八万ウルヴズミニバスケットボールクラブ(徳島)13-49白石ミニバスケットボールチーム(北海道)
会場	京王アリーナTOKYO
審判員名	CC:進藤 道広 氏(東京) U1:今井 康輔
審判員主任名	
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスでは、マンツーマンコミッショナーの赤色旗が上がった際の対応および再開方法、ビッグマン周辺のリバウンドの整理について確認を行った。
試合は、序盤から体格差やスピードの差により点差が開く展開となったが、劣勢のチームも最後まで諦めずに戦っていた。6年生最後の試合において、結果としてファウルアウトになる選手が出ず、大きな混乱なく試合を終えられたことは、ゲームコントロールの観点から一定の成果であったと考える。
一方で、ボール運びに対する体の当て方や手の使い方については、より適切に見極めて判定する必要がある。また、スリーポイントシュートの試投が多い展開であったため、ボールの跳ね方を予測し、リバウンドの位置取りを意識して動き、静止して判定をすることが求められた。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

私自身、今回で2回目となる全国ミニバスケットボール大会に、派遣審判員として参加させていただきました。昨年とは会場やルールが異なる大会であり、戸惑う場面もありましたが、他県審判員の皆様の協力のもと、多くの学びを得て大会を終えることができました。
ゴールの高さの変更やボールサイズの違いにより、エアボールとなる場面が多く見られ、その都度ショットクロックの確認が求められました。これらの経験を通じて、ショットクロックマネジメントの重要性について理解を深めることができたことは、私にとって大きな収穫となりました。
今回の全国大会で得た貴重な経験を、今後は県内およびU12連盟へ還元し、審判員全体のレベル向上に繋げていきたいと考えております。
最後に、本派遣に際しご配慮いただきました梶審判長をはじめ、県内審判員の皆様、ならびに大会運営にご尽力いただいた東京都関係者の皆様にご心より感謝申し上げます、本報告とさせていただきます。